

365 中央大学招待会

〔「法学新報」第24巻5(275)号 大正3年5月1日〕

○中央大学招待会 去月三日より日本弁護士協会の臨時大会ありて各地方の弁護士たる學員諸氏出京せられたるに由り中央大学にては同月四日午後五時より校内俱樂部に其招待会を開催したり当日出席者は石山彌平、稲村藤太郎、市川喜一、花井卓藏、林頼三郎、鳥居錦次郎、奥田義人、大場茂馬、岡崎伊勢藏、渡辺熊三郎、川手忠義、川上清、河合廉一、高野金重、高窪喜八郎、中島信夫、永田好峰、内藤正剛、卜部喜太郎、内田清吉、久保義郎、山浦橋馬、松井繁太郎、前田米藏、古沢五郎、五味平五郎、新田目善次郎、新井要太郎、荒井確治、宮岡恒次郎、三宅碩夫、湊芳藏、峰尾穰、宮沢高義、清水有国、品川英一、樋口竹次郎、元田肇、瀬下清通等の諸氏及び主人側にては岡野敬次郎、佐藤正之の二氏にして席定まるや各觴を引て飲み且談し宴酣なる頃岡野博士より主人側を代表しての挨拶あり杯を挙げ来会者諸君の健康を祝し之に対して鳥居弁護士来賓を代表して謝辞を述べ次て大に私学の為めに気焔を吐き理事者に向て母校の大成を切望し吾人學員は如何なる努力を為しても母校を援助して学界の覇者たらしめざるへからざる旨を演述し杯を挙げて母校の万歳を祝し夫れより元田通相卜部弁護士、奥田法相の演説あり終りに花井博士の沈痛なる演説ありて雑談に移り一同

飲を罄くして散会したり当日は夕刻より時ならざる降雪紛紛として来り道途亦泥濘なりしに拘はらず来賓諸氏は奮て出席せられたるを以て意外の盛会を見るに至りしは主人側の大に満足する所なり